

工業会設立50周年の好機に 「立駐」のさらなる価値向上を展開



桑田敦

森井博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

ゲスト

公益社団法人 立体駐車場工業会 会長
株式会社IHI 執行役員 営業本部長

桑田敦氏

【プロフィール】 1981年IHI(当時は石川島播磨重工業)入社。運搬機械営業部物流システムを皮切りに、関西支社、航空宇宙事業本部のガスタービンセクション、中部支社長、産業ロジスティクスセクター副セクター長を経て今年4月に営業本部長に就任。一貫して営業畑を歩む。立体駐車場工業会には2年半前に副会長として加わり、佐野前会長と2年間仕事をした後、今年5月、会長に就任した。

立体駐車場工業会設立から今年で50年。今年5月、大きな節目の年に新会長に就任された桑田敦氏は半世紀の歴史を持つ工業会をどのように舵取りされているのか。方針、抱負などをうかがった(収録：2015年7月24日)。

来年2月の原案完成を目標に JIS規格化の取り組みが 進行中

森井 まずは、立体駐車場工業会の新会長としての抱負から聞かせていただけますか。

桑田 設立から50年ですから1965年に産声を上げたことなるわけです。この間、大先輩たちがつくってきた立体駐車場業界の取りまとめ役である本工業会の精神を理解し、継承していくことが大きな任務だと考えています。

森井 具体的にはどんな取り組みを重視されていますか。

桑田 何と言っても昨今叫ばれている立体駐車場の安全対策の拡充をさらに進めていくことです。そしてもうひとつは国土交通省が提唱している海外展開です。この2つは佐野前会長が貫いていくべきだとおっしゃっていた方針の延長線ということになります。

森井 そうですね。私もそれは本欄の対談記事で佐野さんをお招きした際にお聞きしました。

桑田 まず安全の分野に関しては、ご存じのとおり、立体駐車場工業会が今年1月に大臣認証登録機関に登録されましたので、次なる目標であるJIS規格化へ向けた活動を本格化させているところです。

森井 どのように進めていらっしゃるのですか。

桑田 国土交通省の「安全機能に関する基準」を受けて、本会の大臣認定制度の認証基準が出来上がりました。また、その認証基準をも包含した技術基準2015年版が完成し、それを受けたJIS

規格化は、いわばその最終章に位置付けています。昨年11月に日本規格協会が募集した「JIS原案作成公募制度」に応募し、認可されたことを受けて「機械式駐車設備の安全規格・JIS原案作成委員会」を構成、開催致しました。委員長には明治大学名誉教授の向殿政男氏をお招きし、本格的な活動を開始したところです。ちなみに向殿先生は機械安全、製品安全等の分野における権威です。

森井 なるほど。

桑田 元々、向殿先生をはじめ、ほかにも多数の有識者の先生方、当協会の技術委員会、国土交通省の担当官の皆様で構成する「機械式立体駐車場の安全対策検討委員会」があったわけですが、その中での議論をベースにJIS規格化への取り組みを進めております。

森井 スケジュールはどうなっているのですか。

桑田 実は非常にタイトでして、来年2月をめどに原案を完成させようということになっています。従来の安全基準を整備することに加えて、JIS規格化となりますと新たな論点も加わってまいりますので、かなりボリュームは増えてくるはずですよ。

森井 ということはメーカーから見れば、将来的にはコストアップにつながる可能性も出てくるわけですね。国からの助成金をいただく仕組みを利用すること

はできないのでしょうか。

桑田 国土交通省とも連携をとっていますが、難しいかもしれませんね。

森井 では経済産業省の助成金制度はどうでしょう。機械式立体駐車場を最先端のIT技術を搭載した製品とすれば助成金制度に該当するケースが出てくるとも考えられます。

桑田 そうですね。研究、調査に値するかもしれません。

事故発生のリスクが高い マンションの駐車場にも 安全対策を拡充

森井 もうひとつ、立体駐車場工業会の安全対策の取り組みである、アニメーションのDVDについても教えていただければと思います。昨年3月に国土交通省から出された安全対策ガイドライン発出以前から、駐車場の管理者・利用者へ向けて制作されましたね。拝見しまして、非常に簡潔で分かりやすい内容だと思いました。

桑田 ありがとうございます。立体駐車場の正しい利用法を分かっていたかどうかという目的で制作致しました。過去の事事例をまとめ、なぜそうした事故が起きたのか、原因を検証したデータを蓄積した結果できあがったDVDであると自負しています。また、安全対策の取り組みとしては、合わせて全国各地で立体



今年5月19日、臨時理事会の後、退任する佐野前会長に記念品を贈呈

駐車場の管理者、利用者を対象にした安全講習会の開催を継続しております。

森井 講習会はいつから始められたのですか。

桑田 平成20年です。

森井 7年目ですか。長く続けていらっしゃいますね。

桑田 これまでに全18回、東京、大阪、名古屋といった大都市で開催して参りまして、全受講者は1000人を超えております。さらに今年は札幌、横浜、福岡でも新たに開講する予定です。

森井 三大都市以外の政令指定都市にも講習会のネットワークを広げていくのは、非常に意義のあることだと思います。受講者からの反響は何かありましたか。

桑田 各会場で直接的な受講者からのリアクションをいただいたわけではありません。ただ、先に申し上げたとおり、今年1月に大臣認証登録機関に登録されたことを受けて多数の関係企業様から問い合わせをいただきまして、研修会の効果が浸透していることを実感しています。

森井 私も仕事柄、駐車場運営管理会社さんと話をする機会が多いのですが、立体駐車場工業会主催の研修会を受けたと話される担当者が多いです。

桑田 また、今年5月に国土交通省と行った第4回意見交換会でも少しお話したのですが、公的なマンションの管理者団体である、一般社団法人マンション管理業協会と連携した研修会も始めました。

森井 昨今のマンションには機械式の立体駐車場を採用しているケースが多く見られますから確かに研修は必要でしょう。非常に良い着眼点ですね。

桑田 ありがとうございます。マンション管理業協会のご厚意もあり、今年の5～6月にかけて、協会の主催するアドバンス研修に私たち立体駐車場工業会が参画させていただきました。各会で1時間30分ほど時間を頂戴して研修を開催させていただきました。

森井 場所はやはり全国各地で行われたのですか。

桑田 東京、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡の7会場で開催致しました。受講されたのはマンション管理業協会加盟の168社で、受講者数は680名でした。

森井 やはりマンションの立体駐車場になると利用者の裾野が広がるだけに、比例して受講者数も増えるということでしょうか。マンションに多く導入されている二多段式の立体駐車場は、オフィスなどに

導入されている垂直循環式やエレベータ式の管理人が付いているタイプと違ってほとんどが無人です。しかもパレット数でいえば、立体駐車場の総数の半分以上を占めていると思います。お年寄りや小さな子どもも暮らすマンションにあるものだけに不特定多数の人が触る機会が多いわけですから、安全対策は不可欠ですね。研修ではあのDVDも使われたのですか？

桑田 はい。教材として用いまして分かりやすいと好評だったということです。また、それと同時に国土交通省の安全対策ガイドラインで要請されている、設置者、管理者、製造者、保守点検作業、そして利用者、これらの人たちの協議の場を持つということで、各関係主体を招集するための主体的な役割の発揮をマンション管理業協会の会員様にお願いして参りました。これは工業会の広報委員会が担当しております。

森井 JIS規格化、DVD、そして各種の研修会、いずれも立体駐車場に関連するすべての方を対象にした安全対策ということで、社会的な価値の高い取り組みだと思います。週れば立体駐車場が誕生した当時は、同じ土地にできるだけたくさん車を駐車しようとするあまり、機

着々と進む、安全対策の取り組み

多段式駐車装置

正しい入庫方法

このDVDでは、立体駐車場工業会が推奨するピット2段式駐車装置の正しい入庫方法を紹介します。

- ① 通行に、両側を歩行し、荷物も持ちます。
- ② 特にお子様の場合は、手の持物等を決めておきましょう。
- ③ 規定を確認し、指定位置を確保します。
- ④ アップエレベーターを確保し、所定の位置に降りて入庫します。
- ⑤ 入庫はドアを閉めた後、直前に立ち止まり、安全を確認してから入庫します。
- ⑥ 進入後は必ず、安全確認の安全ゲートを閉め、乗降も止めます。
- ⑦ 乗降に必要の電源を切り、乗降キーを握り止めます。

正しい出庫方法

このDVDでは、立体駐車場工業会が推奨するピット2段式駐車装置の正しい出庫方法を紹介します。

- ① 乗降キーを握り止めたまま、乗降エレベーターを降り、乗降位置を確認します。
- ② 乗降エレベーターが停止したら、乗降位置を確認して出庫します。
- ③ 乗降エレベーターが停止したら、乗降位置を確認して出庫します。
- ④ 乗降エレベーターが停止したら、乗降位置を確認して出庫します。
- ⑤ 乗降エレベーターが停止したら、乗降位置を確認して出庫します。

ボタン確認による事故①

この映像は乗降エレベーターが停止した際にボタン確認を怠ることで発生する事故を示しています。乗降エレベーターが停止した際にボタン確認を怠ると、乗降エレベーターが動き出す可能性があります。乗降エレベーターが動き出すと、乗降者が怪傷を受ける可能性があります。

子供の操作

この映像は子供が乗降エレベーターのボタンを操作することで発生する事故を示しています。子供が乗降エレベーターのボタンを操作すると、乗降エレベーターが動き出す可能性があります。乗降エレベーターが動き出すと、乗降者が怪傷を受ける可能性があります。

扉以外の物を置いた事故

この映像は乗降エレベーターの扉以外の場所に物を置いたことで発生する事故を示しています。乗降エレベーターの扉以外の場所に物を置くと、乗降エレベーターが動き出す可能性があります。乗降エレベーターが動き出すと、乗降者が怪傷を受ける可能性があります。

ドアミラー接触事故

この映像は乗降エレベーターのドアミラーが他の乗降者の乗降エレベーターと接触することで発生する事故を示しています。乗降エレベーターのドアミラーが他の乗降者の乗降エレベーターと接触すると、乗降エレベーターが動き出す可能性があります。乗降エレベーターが動き出すと、乗降者が怪傷を受ける可能性があります。

安全ガイドDVDの解説書。CGを使い、分かりやすい内容になっている

大型装置用の注意喚起ステッカー

機械式立体駐車場での事故に注意ください!

- 乗降エレベーターの扉に入らない!
- 乗降エレベーターの扉を閉めた後、乗降エレベーターが動き出す前に乗降位置を確認する!
- 乗降エレベーターの扉以外の場所に物を置かない!

大型装置用の注意喚起ステッカー

二段・多段方式

機械式立体駐車場での事故に注意ください!

- 他人の扉が押してあるときは操作しない!
- 子供は車に入れない! 乗降に立ち寄りません!
- 乗降エレベーターの扉を閉めた後、乗降エレベーターが動き出す前に乗降位置を確認する!

同じく二段・多段方式用

能性ばかりが重視される傾向が強かったと思います。したがって、ともしれば安全面については一旦措いておく、といった感があったのは否めません。

桑田 そうですね。その反省もふまえてのJIS規格化、DVD制作、全国各地での安全研修会開講を進めているわけです。ちなみに国土交通省からWEB上でもリリースされている「機械式立体駐車場をめぐる最近の動き」の中に、重大事故の発生状況に関する分析があり、平成19年以降、一般利用者等の死亡・重傷に至った28件の事故の発生要因がいくつか分類されています。それによると「無人確認不足」「危険源への接近」「不適切な自動車運転」「外部侵入」「不適切な操作」「機械・電気の不良、劣化」「障害物」といった要因があり、中でも9件と最多なのが「無人確認不足」です。これをどのように防ぐのが、直近の最も大きな課題だと考えています。

「美しさ」への配慮も 今後の課題に加える

森井 課題に付け加えさせていただくなら、美しさについても意識していただけだと思います。というのは、立体機械式駐車場の鉄骨がむき出しになった形状はいかなものかと長年感じていたからです。あのカタチにデザインの概念を採用し、もっと美しいものにしていければ、それは同時に安全性を確保することになるのではないかと思います。

桑田 そうですね。昨今スマートシティと呼ばれる世の中に移行してきたこともあり、立体駐車場にも都市の景観とどのようにマッチしていくかが求められる時代に入っていると思います。

森井 駐車場の美しさといえば、私がIHI在籍当時にお世話になりました森ビルさんに関連したエピソードを思い出します。当時森ビルさんはお得意先のひとつで、多くの立体駐車場を納入させてい



桑田氏は、高校時代は野球、大学では混声合唱団でルネサンス期以前の教会音楽を中心に歌った経験を持つ。就職活動時は「重く、堅く、デカイモノをつくっている企業を志し」IHIに入社したとのこと

ただきました。その頃、確か常務を務められていた故森稔氏が「もっときれいな立体駐車場にしませんか」と盛んにおっしゃってしまして、外装にアーバンデザインを施した立体駐車場をつくったのです。そのデザイナーさんは、銀座の松屋、日本橋の高島屋に納入された立体駐車場の外装デザインも手掛けられた方で、森さんからも高い評価を得ることができました。ちなみにその立体駐車場は「アーバンデザイン賞」も受賞したのです。

桑田 なるほど。そういえば私もひとつ思い出したことがあります。かつて、自動車が今のようなオーダーメイド的な生産ではなく、多くのストックを持ち、それを販売していた時代には、自動車ディーラー各社の横にはまだナンバープレートの付いていない完成車用の立体自動倉庫が設置されていました。規模でいえば一基500～1000台ほどです。立体駐車場同様、外装は無機質なものが多かったのですが、中には「見せる」ことを意識したディーラーさんもいらっしゃいました。

森井 例えばどのようなものですか。

桑田 埼玉のあるディーラーは、巨大な鷲の絵を描いていまして、その自動倉庫は「ビッグイーグル」という別名もありましたね。また、大阪では外装をスケルトンにして、あえて内部に納められている

新車を見せ、夜間にはライトアップもしていました。いずれも見栄えが良く、当時は話題になったことを覚えています。今後は、安全もさることながら、美しさを追求する姿勢も求められてくるでしょうね。

シンガポールでの 受注を契機に 「爆発的な水平展開」を

森井 では、続きまして立体駐車場の海外展開について教えていただけますか。

桑田 まず少し振り返りますと、国土交通省には日本の技術を海外に広めたいという戦略があり、立体駐車場業界も1990年頃をピークに国内マーケットがシュリンクしていったという現実がありました。このニーズが相まって2011年から東南アジアの視察が始まりました。この年は、シンガポール、マレーシアのクアラルンプールを視察。2012年はインドネシアのジャカルタ、ベトナムのハノイ、タイのバンコク。2013年には、これは私も同行させていただきましたベトナムのホーチミン、ミャンマーのヤンゴンを訪れました。昨年は実施されませんでしたでしたが、今年が本会設立50周年の節目ということもあり、アジアから視野を広げて10月にトルコを視察する予定になっています。



森井 昨年7月には東南アジア視察の成果として、シンガポールにおいて初の海外受注を実現されています。これについて教えていただけますか。

桑田 クライアントはシンガポールの政府系住宅公社Housing and Development Board (HDB)としまして、国民の8割が暮らすともいわれる公団住宅の運営団体です。既に工事は始まっています。ゼネコンは佐藤工業さんで、機械式駐車設備部分はIHIが請け負います。

森井 このプロジェクトが成功すれば

波及効果はかなり大きくなりそうですね。

桑田 そのとおりです。シンガポールでは駐車場不足が社会問題化しており、日本の機械式立体駐車場がその効果的なソリューションになることが実証されれば、爆発的に水平展開していくと思います。

森井 それは非常に楽しみです。

桑田 国土交通省も大きな期待を寄せています。シンガポールは都市機能が集約された世界でもトップクラスの国際都市ですから、そこでの成功は海外での普及拡大に向けた格好の足掛かりになるはずですよ。

森井 うまくいけば他の東南アジア諸国でも次なる受注が期待できそうです。

立駐単体ではなく「都市計画」も含めた包括的提案が海外展開のカギ

桑田 ただ、ミャンマーのヤンゴン視察した際に感じたのですが、国によっては、シンプルに機械式立体駐車場だけを納入するだけでは良い結果は得られないかもしれません。

森井 といいますと？

桑田 ヤンゴンは2011年に軍政下から

民主化に移行した後の発展で、日本製の中古車が大量に出回りました。しかし、市内はまだ軍事政権時代の名残で交通計画やレギュレーションなどが構築されていないんですね。そこで政府はまず二輪と四輪が並走するのは危険だということで、二輪を市街地から締め出す方策を取りました。ただ、それでも自動車の数はまだまだ膨大であり、数珠つなぎの渋滞は解消されていません。

森井 日本製の機械式立体駐車場は渋滞緩和の切り札になるかもしれない？

桑田 ヤンゴンの大渋滞は、二列、三列におよぶ縦列駐車も大きな要因なので、機械式立体駐車場がある程度の緩和をもたらすのは確かだと思います。しかし、それでは抜本的な解決までには至らないかもしれません。先ほど申し上げたとおり、インフラや法律の整備も不可欠ではないかと思います。

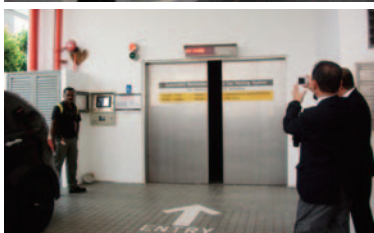
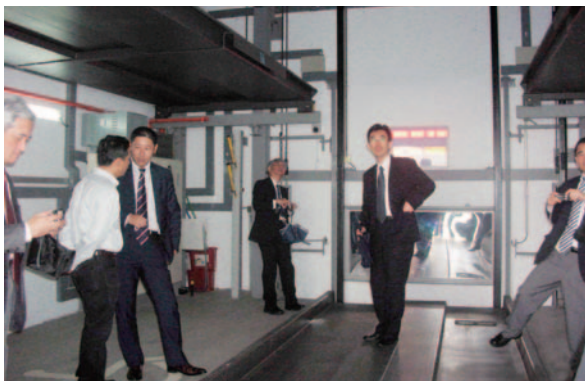
森井 なるほど。

桑田 メーカー単位で臨むのではなく、日本とミャンマー、国レベルでの交渉や調整が必要だと考えます。いわば立体駐車場を軸にした都市交通、都市計画そのものを輸出するわけです。工業会の会員各社、国土交通省のバックアップをいただき、日本

成果を生み出し始めた海外視察



昨年受注したシンガポールで評価が高まれば海外展開に大きな弾みがつくはず。右は2点とも2011年のシンガポール視察にて撮影されたもの



2013年のミャンマー・ヤンゴン視察。左端が桑田会長（上写真）

連合としてアプローチして事業を拡大していければ理想的ですね。これはインドネシアやタイなどでも同じだと思います。

森井 私もかつてサウジアラビアに立体駐車場を5基販売したのですが、最終的にあちらの政府の都市計画が変更になったことから、実際の建設までに至らなかった経験があります。その意味でも、都市計画、都市政策と立体駐車場をセットにして展開していくというのはビジネスとしてのスケールが拡大するだけでなく、リスクヘッジにもなりますね。

桑田 そうですね。

森井 また、今年トルコ視察をされるとのことですが、私も以前にトルコで立体駐車場の案件を担当しました。アジアとヨーロッパを結ぶ要衝であり、伝統的な建築物が集中しているだけにさまざまな規制があることから立体駐車場の建設もすんなり進めることができない、難しい仕事でした。それでも、事前のマーケットリサーチや関係省庁との意見交換などを重ねて技術提携寸前までいったのですが、最終的に政府の認可が下りず、合意には至りませ

んでした。今年の工業会さんの視察では、是非とも良い足がかりを築き、近い将来の受注につなげていただければと思います。

桑田 視察に先駆けて情報を集めているのですが、ドイツなどヨーロッパ製の機械式駐車場がいくつかはあるようですね。それがどんなものなのかをしっかりと見て、日本製の駐車場がどんな可能性を得られるのか考えたいと思います。

森井 良い成果を期待しています。

桑田 ありがとうございます。また、最後に申し上げたいのが、従来にない新たな技術開発への取り組みを追求したいということです。地下式のスクエアパーキングなども出てきてはいますが、従来の技術の延長であって、決して斬新なものではありません。海外展開の場合は、国、地域によって交通、駐車場の事情も異なりますし、必ずしも最新技術を盛り込む必要はないかもしれない。むしろロースペックでコストを抑えた製品が適しているケースも考えられます。しかし国内の市場に向けた技術革新は、モノづくりに向けた日本のメーカーとして、やはり、



どんどん進めていくべきだと思います。
森井 分かりました。本日は立体駐車場工業会新会長としての抱負や計画などいろいろなお話をいただきました。JIS規格化、シンガポールでの受注に始まる海外展開など、日本の機械式立体駐車場の新たな可能性を感じることができた60分でした。これからも大いに期待しています。本日は誠にありがとうございました。 PP

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男性合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々代表取締役CEO

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ77才。
1957年(昭和32年)石川県立金沢泉ヶ丘高校卒
1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
1961~1979年 石川島播磨重工業(現: IHI)
1979~1991年 東芝
1991年~ 現職

【趣味】 現在: ゴルフ、合唱 過去: テニス、野球、ドライブ

【遍歴】 水泳(小学生になる前から泳ぎ、中学校では石川県大会で後にオリンピックに出た選手より速かった)、野球(中学生までは本気でプロ野球選手になるつもりであった。元西鉄ライオンズ 故・鉄腕 稲尾和久投手、完全試合男 田中勉投手、元巨人 淡河弘捕手は友人。原辰徳監督の父 故・貢氏からはボクサー犬を貰った仲。少年野球コーチ6年間)、陸上競技(短距離、やり投げ、インターハイ2回出場)、テニス(元デ杯選手本井満氏のコーチでかなりの腕前になるも、45才時アキレス腱断裂で引退)、ゴルフ(熱心に勉強するも、なかなかシングルにはなれない。これをヘタの横好きという)

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

